

こんなときどうする？

子どもへの支援

子どもたちが示す困難さには、必ず背景となっているものがあります。

その背景について考えてみると支援の方法が見つかります。



身のまわりを片づけられない

整理整頓ができなくて、机やロッカーの中がぐちゃぐちゃになっています。机の周りには、物が落ちていたりします。いつも捜し物をしていて、授業の準備も遅くなってしまいます。



困難さの背景には

- 物を分類することが苦手。
- 空間認知の弱さがあり、物の大きさの検討を付けることが苦手。
- 片づけようと思っても、途中で他のことに気を取られてしまう。
- 手先が器用に動かせない。

こんな支援を試みたらどうでしょう

学校では

○どこに何を片づければよいのか、置く場所を決める

机やロッカーの中に何をしまうのか、物の名前を書いたり、出来上がりの絵や写真を貼ったりすると分かりやすくなります。また、仕切りなどを作ると片づけやすくなります。

○片づけの手順を分かりやすく示す

片づけの手順表を作り、どこに何を片づけるか確認し、一緒に取り組むとよいでしょう。片づけができれば、シールでほめるとやる気がでてくるかもしれません。慣れてきたら、徐々に子どもだけでできるように支援してきましょう。

家庭では

○種類ごとに分ける

学校で使う物、家庭で使う物を分けて置くとよいでしょう。また、洗濯物をたたんで種類ごとに分け、決められた場所にしまうことは、物を分けて片づける練習にもなります。週末は、子どもと一緒に洗濯物やおもちゃなどの片づけをする時間を持つといいですね。

忘れ物が多い

宿題や提出物、授業で使う物を家に忘れてきてしまいます。



困難さの背景には

- ・不注意で指示を聞き取れていない。
- ・板書を書き写すことができない。
- ・持ち物がたくさんあると、準備をすることが難しい。
- ・準備をしても、朝持って行くことを忘れてしまう。

こんな支援をしてみたらどうでしょう

学校では

○記憶の弱さを補助する工夫をする

持ち物の連絡は、口頭ではなく、連絡帳に記入するようにしましょう。また、記入できたか、確認することが大切です。

○ファイルや袋を活用する

お便り、プリントは専用のファイルや袋に入れるとよいでしょう。教科ごとにファイルを作ると片づけや準備がしやすくなります。確実にできた経験を積み重ねていくことが大切です。

家庭では

○物の置き場所を決める

学校に持って行く学用品などを置く場所を決めておくといよいでしょう。宿題や持ち物など、次の日の支度を、初めは子供と一緒に確認し、徐々に子どもだけでできるように支援していきましょう。支度ができたら、玄関にまとめて置いておくと、忘れずに持って行くことができるようになります。

切り替えが苦手

終了時間になっても、作業を途中で切り上げることができないことがあります。



困難さの背景には

- ・夢中になっていることがあると、周りの状況に気づけない。
- ・指示の聞き落としや聞き違いが多くて、行動が遅れる。
- ・活動を止められず、自分の気持ちをコントロールすることが苦手。

こんな支援を試してみたらどうでしょう

学校では

○一日のスケジュールや一時間の活動の流れを提示しておく

黒板に提示して学級全体に示すほかに、個別にメモを渡すことで、子どもが机上で確認することができます。また、活動がどこまで進んでいるかメモにチェックすることで見通しがもちやすくなります。

○気持ちを切り替えるきっかけとなる言葉がけをする

「あと○分したら、□□をしようか。」 「○○までしたら、□□をしようか。」など、子どもと確認し活動を区切る提案をしましょう。

家庭では

○スケジュールを一緒に確認する

宿題をする時間、遊ぶ時間を一緒に決めて、メモに記入するとよいでしょう。切り替えの時間の少し前に声をかけて、次の活動に移る気持ちの準備ができるように支援しましょう。また、気持ちを切り替えることができたなら、がんばりを褒めると、子どもの自信につながります。

課題にすぐに取り組めない

学習が始まって指示が出されても、すぐに取り組むことができず、ボーッとしていることがあります。



困難さの背景には

- ・他の刺激に影響されて、話し手の言葉に注意を向けられない。
- ・言葉で指示を出されると、それら全てを覚えていることが難しい。
- ・指示を実際どのように行動に移したらよいか分からない。

こんな支援を試みたらどうでしょう

学校では

○短い言葉でゆっくり繰り返して話す

話し手に意識を向けさせる声かけをして、指示は一つずつ伝えましょう。

必要に応じて、注意を向けにくい子どもは席を前にするなどの配慮をしたり、指示することがいくつかある場合は、いつでも確認できるように掲示しておいたりすることも大切です。

○学習面では、取り組みやすい課題の工夫を

課題は少しずつ提示し、一人一人が達成感を味わうことができる量に調整するとよいでしょう。

例を見ながら、解くような課題の提示をすると取り組みやすくなります。

また、書く量が少ないプリントの使用も有効です。

家庭では

○取り組むことを分かりやすく伝える

取り組む内容をメモに書いて、短い言葉で伝えましょう。

宿題に取り組みにくい時には、やり方が分からないことがあるかもしれません。ヒントを出したり、一緒に解き方を確認したりするとよいでしょう。

授業中おしゃべりが多い

授業中、自分が話したいことを話してしまい、話を聞くことができません。



困難さの背景には

- ・視覚的、聴覚的な刺激が入ると、授業の内容とは違う話をしてしまう。
- ・発言のルールを意識できない。
- ・状況判断をすることが難しい。

こんな支援を試みたらどうでしょう

学校では

○刺激が少ない席の配置を

前列で中央の席は、視覚的、聴覚的刺激が入りにくいと思われる。おしゃべりが気になるときにも、声かけがしやすい位置なので、支援がしやすくなります。

○発言のルールを確認する

「発言する時には手を挙げる」「人の話は最後まで聞く」などの話す時と聞く時のルールを決め、掲示しておきましょう。

「話を聞きましょう」「手を挙げて発言しましょう」などのカードを作り、子どもがどのようにしたらよいか視覚的に提示しましょう。

思いや考えを『発言』で伝える習慣をつけることで、学習に取り組む意欲につなげていけるとよいでしょう。

授業中落ち着かない

授業中、手いたずらをしたり、体が動いたりして集中することができません。



困難さの背景には

- ・多動性がある
- ・不安感情が強い。
- ・集中が続かない。

こんな支援を試みたらどうでしょう

学校では

○教室の全面は、掲示物を少なくする

教室の全面は、掲示物を少なくし、授業に集中できるようにすることが望めます。

○学習に見通しをもたせる

授業の内容を工夫し、1時間の学習の流れを提示すると、学習に見通しをもつことができます。また、どこまで活動が進んだか印を付けておくこともよいでしょう。

○動いてもよい場面を作る

発言をすることができれば、指名するようにします。

プリントを配ったり、掲示の手伝いをしたりなど、動いてもよい活動や役割を与えるようにすると、気持ちを切り替えることができるでしょう。

不安感情が強い場合には、特定の物を触っていることで、気持ちを安定させることができます。

授業中立ち歩いたり

教室から出たりする

授業中、友達の所に行って話をしたり、教室から外に出て行ってしまったりすることがあります。



困難さの背景には

- ・気になる物や音があると自分の行動をコントロールすることが難しくなる。
- ・課題が難しく取り組むことができない。
- ・活動が上手くいかない。
- ・課題が早く終わってしまった。

こんな支援をしてみたらどうでしょう

学校では

○学習環境の調整を

学習を行うときには、視覚的・聴覚的な刺激をできるだけ少なくし、集中しやすい環境を整えることが大切です。

○スモールステップで取り組ませる

短時間の課題を組み合わせ、子どもに合わせた課題の量に調整するとよいでしょう。どうしても学習に取り組むことが難しい場合、水を飲んだりクールダウンする場所を用意したりする配慮も望めます。

○学習意欲につなげるために

子どもが活躍できる場面を授業の中で意識して作ることも大切です。また、課題はいくつかのレベルや問題数を選べるものにしておくと取り組みやすくなり、できたことへの達成感を味わうことができるようになるでしょう。

自分勝手に行動する

友達と一緒に活動をする時に、自分が好きなことをしたがり、自分の思ったやり方で進めてしまったりします。

家庭では



こんな支援を試してみたらどうでしょう

学校では

○ルールを見える形で示す

分かりにくいルールは、絵や文で示し、確認でいきるようしておくとい良いでしょう。また、大人と一緒に取り組んでみることで、どのように活動したらよいか具体的に理解できるようになります。

○ルールを守る取り組みを

ルールが分かったら、期間を決めてルールを守る取り組みを試みることも良いでしょう。がんばりカードなどを作り、できた時には、スタンプやシール等でがんばりを評価しましょう。できることが増えていくと、本人の自信にもつながります。

困難さの背景には

- ・生活の中のルールを覚えにくい。
- ・ルールは分かっているけど、自分の気持ちをコントロールすることが難しい。

約束が守れない

約束したことを守れず、友達とトラブルになってしまうことがあります。



こんな支援を試みたらどうでしょう

学校では

○約束したことを思い出せるように工夫する

自分の役割や分担、友達と約束したことなど、その場でメモをして、ノートや黒板に貼っておくとよいでしょう。

○メモを見て確認する

学校では、当番のやり方やゲームのルールなど活動が始める前に視覚的な資料を使って確認をしましょう。

困難さの背景には

- ・興味のあることへ気持ち移ってしまい、約束自体を忘れてしまう。
- ・約束は覚えていても、やり方が分からない。

家庭では

○連絡帳やメモ帳の活用を

連絡帳やメモ帳を見て、次の日の持ち物や友達と約束したことなど確認するようにしましょう。子どもが見落としている場合は、声をかけるようにするとよいでしょう。

偏食がある

自分の好きな物しか食べず、給食を残すことが多いです。



困難さの背景には

- ・初めて見る食材やメニューに抵抗がある。
- ・味覚や嗅覚の過敏さがある。

こんな支援をしてみたらどうでしょう

学校では

〇盛りつけや声かけの工夫を

盛りつけは本人が食べられる量にしたり、一口でも食べることができたら、励ましの声をかけたりするとよいでしょう。

学習の中で野菜などの栽培をする機会があれば、その成長を観察することを通して、興味関心をもつことができるかもしれません。

また、給食の時間などに、食べ物の栄養価やバランスよく食べることの大切さについて伝えるとよいでしょう。

家庭では

〇味つけ、盛りつけ、調理法を変えてみる

子どもと一緒に買い物に行って、食材を選んだり、一緒に調理をしてみたりしてはどうでしょうか。食に関する興味関心を引き出すことができるかもしれません。また、子どもが食べやすい調理方法を工夫することも大切です。

野菜は、家庭のプランターなどで育てることができると、自分で育てたものなので、食べてみようかというきっかけになるかもしれません。

参考資料

「教室で気になる子への手立てとヒント」黒川君江 編著 小学館 2005)

「ここがポイント学級担任の特別支援教育」(河村茂雄 編著 図書文化 2005)

「子どもへの支援」(東京学芸大学特別支援教育時代の教員養成システムの開発推進委員会編 2011)

「特別支援教育サポート辞典」笹森洋樹 編著 合同出版 2015)